令和6年度　学校評価

伊予市立伊予小学校

【評価の基準】

Ａ：目標を達成　　（８割以上が肯定）
Ｂ：おおむね目標を達成　　（６割以上が肯定）
Ｃ：あまり達成できていない（６割未満が肯定）

※　各評価資料の結果をもとに総合的に判断する。

【目標値】８０％が肯定　以下同様

【評価母体数】

教職員	２５
児童	３３９
保護者	２３７
地域	２３

【 評価の基準・肯定割合】
◎８割以上肯定
○６割以上肯定
△６割未満が肯定

【アンケートの内容】
ア：たいへんよい
イ：よい
ウ：あまりよくない
エ：よくない
オ：わからない

項目	小項目（重点目標）	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果（%）ア	イ	ウ	エ	オ
教育課程・学習指導	確かな学力の定着と向上	家庭と協力して家庭学習の習慣（1～3年生は30分以上　4年生以上は、学年×10分以上）が身に付いている。	B	●　家庭学習の習慣が身に付いていないと感じている保護者がいる。児童も肯定的な意見の割合が多いものの、問題だと感じている児童も若干名いる。 ◆　家庭学習強調週間への取組を啓発するなど、保護者と連携した家庭学習の在り方を模索していくことで、児童への啓発がより効果的に行われると考える。保護者による音読カードや宿題チェックカードの見取り、インタビューや丸付けなど保護者と協力して達成する課題を出すなど、家庭学習の方法を工夫したい。	教職員	◎ 95	21	74	5	0	
					児童	◎ 86	44	42	12	2	
					保護者	△ 54	16	38	33	11	2
					地域						
		発達段階に応じた表現力（話す・書く）が身に付いている。	A	●　教師や児童は、授業の中でできた・分かったという学習経験の積み重ねにより、肯定的に捉える割合が高い。身に付いていないと感じる保護者が若干名いる。 ◆　発達段階に応じた表現力の指針は、教職員・児童・保護者間で違う。個人懇談や学年通信等で、保護者へ児童が学んでいることを紹介したり、学年に応じた目標を示したりしたい。今後も、授業の中で、振り返りや感想等で、児童の思いを豊かに表現する機会を確保して行く必要がある。	教職員	◎ 90	11	79	11	0	
					児童	◎ 85	44	41	13	2	
					保護者	○ 75	25	50	16	5	3
					地域						
	心の教育の充実	道徳科の時間を中心に、自他の生命を大切にする心やよりよく生きたいという心が育っている。	A	●　道徳科と各教科のつながりや、発達の段階を意識して実践を重ねたことで、実生活につながる道徳教育の充実を図ることができたため、児童の「大変よい」の割合が高い。また、学校内外で、他者の思いを尊重し、助け合うなど、児童の心の教育が進んでいる姿が多く見られるようになったため、肯定的な意見が多い。 ◆　今後も道徳的な問題を自分ごととして捉えられるように、教師が道徳科を中心に授業改善を行っていき、他者と関わりながら多面的・多角的に考え、よりよく生きたいと願う児童を育てたい。	教職員	◎ 95	37	58	5	0	
					児童	◎ 98	78	20	2	0	
					保護者	◎ 92	40	52	6	1	1
					地域						
		一人一人の違いを認め合い、人権を大切にする集団づくりがなされている。	A	●　人権・同和教育の参観日をはじめ、学校の教育活動全般で一人一人の違いを認め合い、人権を大切にする集団づくりに取り組んできたため、一人一人を大切にする資質や態度が養われ、肯定的な意見が多い。 ◆　今後も互いのよさを認め合う活動（友達のよいところや頑張っているところを見付け合う活動など）を学校行事や日々の授業の中で取り入れ、自他を大切にする実践的な態度の育成に努める。	教職員	◎ 94	47	47	5	0	
					児童	◎ 97	67	30	2	1	
					保護者	◎ 92	34	58	4	0	4
					地域						
	健康教育の推進	楽しく学校生活が送れている。	A	●　一人一人を大切にする雰囲気が学校全体にある。また、教育相談週間に行う生活アンケートを活用し、教師が適切に対応しているため肯定的な意見が多い。 ◆　これからも教育活動全体を通して児童主体の体験的な活動や地域の方との交流をより充実させ、「明日も来たい学校」づくりを推進する。	教職員	◎ 95	42	53	5	0	
					児童	◎ 94	73	21	4	2	
					保護者	◎ 91	48	43	3	2	3
					地域						
		「早ね、（低学年は９時、中学年は９時半、高学年は10時）早おき、朝ごはん」の習慣が定着している。	B	●　学校からは保健だよりによる啓発や学級活動、体育科による指導があるものの、生活習慣については家庭の教育に委ねられる部分が大きいため、定着というところまで見届けられないため、低い評価になっているのであろう。 ◆　保健だよりによる啓発や学級活動、体育科による指導を継続して行っていく。習い事の多様化など、放課後の過ごし方が多岐に渡るため、学校生活アンケート等を活用して児童の様子を把握し、指導に生かしたい。	教職員	○ 79	16	63	21	0	
					児童	○ 75	43	32	19	6	
					保護者	○ 75	34	41	19	5	1
					地域						
		外遊びや個に応じた体力つくり（マラソンやなわとび、アサカツなど）で健康の保持・増進に努めている。	A	●　年間を通して体力つくりの活動を取り入れたり、教師から啓発したりしているため、教師や児童の意識は高まっているが、保護者がその取組を把握していない可能性がある。 ◆　学校ＨＰなどを通して家庭や地域に活動の様子を伝える。また、なわとびカードやマラソンカードの積極的な活用を通して、学校と家庭が連携して健康の保持・増進に努めたい。	教職員	◎ 95	21	74	5	0	
					児童	◎ 86	60	26	11	3	
					保護者	○ 67	30	37	25	7	0
					地域						

学校関係者評価委員の所見	・学校では、南伊予健康マラソン大会に向けての業間マラソンや業間なわとびの取組があるにも関わらず、「健康教育の推進」において、保護者の評価が低いのはなぜか。	学校の対応	・アンケートを採った時期にも関係するのかもしれないが、学校の取組や子供たちの頑張りが、保護者に伝わっていないという側面が見られた。「確かな学力の定着と向上」の低評価とともに、学習や体力づくりに関して、保護者にも協力していただける取組を考えていきたい。

項目	小項目 （重点目標）	評　価　指　標	評定	考察●　・　改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果％ ア	イ	ウ	エ	オ
生徒指導	生徒指導の徹底	自分から気持ちのよい挨拶や返事ができる児童や正しい言葉遣いができる児童が育っている。	B	●　教職員・保護者に比べて児童・地域の肯定率が高い。教師や保護者が低いのは「もっとしてほしい」「もっとできるだろう」という期待値によるものであろう。 ◆　学年ごとに挨拶や会釈、返事等のできている児童を紹介したり、モデルにしたりするなどして、学校全体の挨拶をしたいという気運を高めたい。また、委員会による挨拶啓発運動や教職員の指導など、手本を示して理解を促し、実践に移す。	教職員	○ 63	21	42	37	0	
					児童	◎ 93	46	47	6	1	
					保護者	○ 71	20	51	21	5	4
					地域	◎ 83	22	61	13	0	4
		いじめ・不登校の早期発見・早期解決に努めている。	A	●　日頃の教育相談や生活アンケートの活用から、いじめ・不登校の未然防止や早期発見・早期解決に努めることができているため、教職員と児童の肯定率は高い。 ◆　教職員や児童と比べて保護者の肯定率が低いのは、学校の様子や児童の実態が把握しづらいことが要因として挙げられる。保護者との連絡を密に行い、学校の様子を伝えたり、児童との関わり方を共有したりすることが大切である。	教職員	◎ 95	58	37	5	0	
					児童	◎ 96	70	26	3	2	
					保護者	○ 77	24	53	14	2	8
					地域						
特別支援教育	特別支援教育の推進	教職員の共通理解のもと、特別な支援を要する児童について、個々の指導計画が作成され、日々の支援の記録の蓄積がなされている。	A	●　特別支援教育コーディネーターが中心となって、児童への適切な支援を考え、実践することができているため、肯定率が高い。 ◆　今後も支援を要する児童の特性への理解を深め､誰もが楽しく「分かる・できる」授業が実践できるように、教師一人一人が研鑽を積んでいきたい。また、通級による指導を含め、児童の教育的ニーズに応じた支援ができるように、保護者との信頼関係の構築に取り組む。	教職員	◎ 95	53	42	5	0	
					児童						
					保護者						
					地域						
		校内体制を整え、関係諸機関との協力が必要な児童について、教師間や教育センター・施設・通級指導教室等と連携を図っている。	A	●　児童がスクールソーシャルワーカー等と関われる機会を増やすなど、児童が自分の困り感について相談しやすい雰囲気づくりに取り組んだ。また、特別支援学校の教諭を講師に招き研修会を実施するなど、個に応じた支援体制が作られ、肯定率が高い。 ◆　今後も学校と関係機関が情報交換を密にし、気になる児童一人一人に応じた支援体制を整え、児童や保護者の支援に当たりたい。また、教師の専門性を高めるための研修を積み重ねていきたい。	教職員	◎ 95	42	53	5	0	
					児童	◎ 93	65	28	5	3	
					保護者						
					地域						
研修	指導力の向上	信頼される教師として、一人一人の児童や家庭に適切に対応している。	B	●　分かる・できる・楽しい授業改善や一人一人を大切にする教育相談を行っているからこそ自信を持って対応していると答えた教職員の割合が多い。一方で「分からない」と答える保護者が若干名おり、保護者に伝わっていないところに課題が残る。 ◆　教職員が保護者のニーズを把握し、行動しようとする姿勢が大切だと考える。学校での児童の様子（児童の頑張りやよいところを中心に）を電話や連絡帳によって積極的に発信しながら信頼関係の構築に努める。	教職員	◎ 94	68	26	5	0	
					児童						
					保護者	○ 78	27	51	8	0	14
					地域						
		自己を磨く教師として、常に学ぶ姿勢を持ち、分かりやすく工夫した授業に努めるなど､自己を向上させようとしている。	A	●　ICTの活用、道徳科の研修を充実させることができ、日々の実践に生かすことができているため肯定率が高い。 ◆　「授業が変わった」「新しくできることが増えた」という実感が、教師の意欲を高め、やりがいにつながる。研修や日々の会話の中で、実践力を高め合う教職員集団となれるよう、更に声を掛け合いたい。	教職員	◎ 94	47	47	5	0	
					児童						
					保護者						
					地域						
		協同する教師として、他の教職員とのコミュニケーションに努め、教育目標に向けたよりよい教育実践を行っている。	A	●　年齢関係なく学び合う集団づくりができているため、話し合ったことが、日々の実践に生かすことができているためであろう。 ◆　教職員一人一人の個性や教育理念を尊重し合い、それぞれのよさに目を向けてチームとして教育目標の実現に向かう意識が高まれば、更に助け合い高め合う教職員集団となる。集団としての高まりが個の成長を促すと考える。	教職員	◎ 95	79	16	5	0	
					児童						
					保護者						
					地域						

学校関係者評価委員の所見	・児童は挨拶をしている気持ちがあるものの、相手に伝わっていなことに気付いていないのではないか。朝の挨拶運動などの取り組ませ方を考えていく必要があるだろう。 ・「指導力の向上」において、授業の中でのICT機器の活用や、世間で騒がれている生成AIを活用した取組など、現在、学校ではどのような取組をしているのか。また、今後どのように生かしていこうとしているのか。	学校の対応	・各学年に応じて、教師が他者理解に基づいた「気持ちのよい挨拶」について指導をしていく。気持ちのよい挨拶をする環境を作っていくために、各学年の取組や委員会の活動などで、気持ちのよい挨拶をしていきたいという気持ちを広げていくことができるようにしたい。 ・現在、ICT機器を活用することで、子供たちの学びの充実に取り組んでいる。今後、学校現場での生成AIの活用など、子供たちの学びの広がりや深まりに有効なものを授業の中で活用できるよう、研修を重ね、指導力の向上に努めていきたい。

項目	小項目（重点目標）	評価指標	評定	考察●・改善の方策◆	アンケート対象	肯定割合	アンケート結果％ ア	イ	ウ	エ	オ
安全管理・施設設備	安全・安心な学校づくり	避難訓練・防犯訓練等を適切に実施し、児童に適切に行動できる安全対応能力が育っている。	A	●　今年度もいろいろな場面を想定した避難訓練を実施することができた。参観日を利用した引き渡し訓練を実施したため、保護者も含め、防犯・防災に対する意識が高まっている。 ◆　今後もいろいろな場面を想定した訓練を積み重ね、児童だけでなく、教師も適切に対応できるようにしていく。また、保護者への啓発も続け、家庭・地域と連携しながら、防犯・防災に対する意識を高めたい。	教職員	◎ 95	42	53	5	0	
					児童	◎ 96	69	27	3	1	
					保護者	◎ 85	22	63	11	0	4
					地域	◎ 87	22	65	4	0	9
		児童の安全確保のため、校外指導が充実している。	A	●　地域の見守り隊の方々やＰＴＡにも協力を得ながら、日々の登下校指導に取り組むことができているため、肯定的な意見が多い。 ◆　教師だけではすべての安全を確保することはできないため、今後も、地域、保護者の協力を得ながら安全指導をしていきたい。	教職員	◎ 89	42	47	11	0	
					児童						
					保護者	◎ 87	36	51	7	0	6
					地域	◎ 96	39	57	0	0	4
		環境美化・施設設備の整備など、よりよい教育環境づくり、安全・安心な学校の施設・設備の整備・充実に努めている。	A	●　施設・設備の老朽化は否めないが、今年度は多目的室の壁紙の修繕をはじめ、多くの施設や設備の整備を行った。教育委員会とも連携しながら迅速な対応を行っているため、高い評価なのであろう。 ◆　今後起きるであろう大規模災害から大切な命を守るために、学校の施設・設備の整備・充実を伊予市にお願いし続けたい。	教職員	◎ 89	47	42	11	0	
					児童	◎ 94	63	31	4	2	
					保護者	◎ 88	34	54	5	0	6
					地域	◎ 96	26	70	0	0	4
保護者・地域住民との連携	地域にたざる特色ある学校づくり	地域の人材や教育資源を生かした教育活動がなされている。	A	●　昨年度に引き続きご協力をいただいた方に加え、活動内容を変更して新にご協力をいただいた方や多方面でご協力をいただいた方など数多くの方に関わっていただいた。 ◆　地域の人材や教育資源の活用し残しがないように、年間指導計画にも位置付け、今後もすばらしい南伊予の地域の人材や教育資源を子供たちと積極的に出合わせていく。	教職員	◎ 95	63	32	5	0	
					児童						
					保護者	◎ 92	37	55	3	0	5
					地域	◎ 91	43	48	4	0	4
		学校だより・学年だより、ホームページ等で学校の情報を積極的に発信している。	A	●　今年度６月からtetoruによる案内や連絡の配信、欠席連絡の受付を始めた。ホームページの更新も昨年度よりも多くし、保護者からの評価もよい。 ◆　今年度も学校評価「分からない」に印が付いていた。すべてを認知していただくことには限界を感じているが、いろいろな機会を見て児童の様子や学校の取組を保護者や地域に伝えていく必要を感じている。	教職員	◎ 95	63	32	5	0	
					児童						
					保護者	◎ 90	36	54	6	0	3
					地域	◎ 100	48	52	0	0	0
		幼稚園・保育所・中学校との連携が図られている。	A	●　人権・同和教育参観日、小中合同運動会、南伊予健康マラソン大会など連携できる行事を中学校と行い、児童によい刺激となった。また、保育園、幼稚園とは互いに参観し合い連絡協議会での話合いを重ねることで、よい情報交換ができている。 ◆　今後も児童理解、児童のよい学びにつながるように、伊予小ならではの連携が図られていくようにする。	教職員	◎ 90	53	37	11	0	
					児童						
					保護者	◎ 92	41	54	2	0	3
					地域	◎ 100	48	52	0	0	0
業務改善	教職員の負担軽減	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立、調和）を意識した働き方をしている。	A	●　教師一人一人が抱えている環境は違えど、仕事と生活の両立や調和が図られるように意識しながら働くことができている。 ◆　今後もお互い様の気持ちを忘れず、教師も「あったかいよ小」であり続ける努力をしていきたい。	教職員	◎ 100	46	54	0	0	
					児童						
					保護者						
		自己を磨き続けたり、互いに学び合えたりするなど、やりがいを感じる職場になっている。	A	●　時期によっては多忙なこともあるが、行事の内容、会議や研修が充実しているため、やりがいを感じる職場になっているのだろう。 ◆　これからも行事や会議、研修等の見直しや効率化を図り、皆がやりがいを感じ、チームとして働くことができる環境を整えていきたい。	教職員	◎ 90	53	37	11	0	
					児童						
					保護者						
		お互い様の心を持ち、働きやすい環境（職場）になっている。（コミュニケーションが図られ、協同的な職場になっている。）	A	●　チームで考え、チームで取り組むことができ、互いの長所を生かし、助け合う土壌があるため高い評価なのであろう。 ◆　教職員間の人間関係は良好である。これからもお互い様の気持ちを持って、協働的に働くことができる環境を整えられるように努力したい。	教職員	◎ 90	53	37	11	0	
					児童						
					保護者						

学校関係者評価委員の所見	・南海トラフ地震などによる、大規模災害が予測されている中、学校でも地域のため池の様子や工事の予定などの状況を把握しておくとよいだろう。 ・幼稚園や保育園との連携が見えてこないところがある。	学校の対応	・地域の方々から最新の地域情報を得ながら、今後も様々な状況を想定した避難訓練を実施し、命を守る活動を積極的に行っていきたい。 ・伊予幼稚園や上野保育所（来年度から認定こども園になる）、みかんこども園との情報交換や授業･保育参観は積極的に行われている。伊予小の児童は、これらの園以外からも入学してくるため、広く情報を発信していくなど、関係機関との連携をこれからも図っていきたい。